

請 願 文 書 表	
受理年月日 及び番号	令和5年11月1日 第28号
件 名	「グリホサート農薬」のっていない安心安全な 学校給食の提供を求める請願
請 願 者	<div style="background-color: black; width: 100%; height: 1.2em; margin-bottom: 0.5em;"></div> <div style="background-color: black; width: 60%; height: 1.2em; margin-bottom: 0.5em; margin-left: 20px;"></div> <div style="background-color: black; width: 40%; height: 1.2em; margin-left: 40px;"></div>
紹介議員	小林 れい子
請願の要旨	次頁のとおり
付託委員会	文教委員会

## 請願理由

子ども達が食べたものは、血となり肉となり身体や心を形作り、健康や未来に大きな影響を及ぼします。免疫が完成していない子ども達の口に入るものは、安心安全な食材を使うことが基本です。農薬は多量に使用されてから、人体や環境への毒性が判明し、代替物を作るという歴史を繰り返してきました。農薬は、「国が安全としているから大丈夫」ではありません。常に最新の研究を考慮に入れ、予防原則で対応することが必要です。日本は、農地単位面積あたりの農薬使用量がOECD加盟国中1位（2015年）。遺伝子組み換え作物の許可数も世界1位です。海外から年間数千万トン輸入される遺伝子組み換え作物には、除草剤ラウンドアップ（主成分グリホサート）が使用されています。また農水省の検査では、輸入小麦からもカナダ産100%、アメリカ産97%でグリホサートの残留が確認されています。残留理由は、日本国内の小麦では禁止されているラウンドアップの収穫前散布が行われているためです。ラウンドアップは世界40カ国以上で禁止や規制がされており、アメリカでは、ラウンドアップを使用してがんになったという訴訟が12万件以上起きています。しかし、日本ではその流れに逆行して、2017年に小麦では残留基準値を6倍（5ppm→30ppm）に緩和しました。文京区の学校給食のパンには輸入小麦が使用されています。

除草剤ラウンドアップ（主成分グリホサート）は、2015年にWHOの専門家機関である国際がん研究機関（IARC）が、グループ2Aの「人に対して恐らく発がん性がある」と発表しました。このグループ2Aの評価は、タバコなどが分類されるグループ1の次に高いものです。近年、グリホサートは膨大な研究が積み重ねられており、世界の多くの研究者や様々な機関がその危険性について公式に警告しています。2017年、ロンドン大学の研究チームは、グリホサートの超低濃度（4 $\mu$ g/kg/日）での長期摂取が、マウスに非アルコール性脂肪肝をひき起こすと研究結果を発表しました。また、2019年の「サイエンティフィック・リポート」では、世代を超えた毒性も報告されています。母ラットにグリホサートを投与（EUの無毒性量の半分）すると、母と子には影響がないのに、孫とひ孫の世代に腫瘍や生殖機能不全など多様な障害がでたのです。積み上げられた多くのエビデンスから、国際産婦人科連合（FIGO）は、予防原則に立ってグリホサートを禁止するよう求める勧告を出しています。

日本の農薬の毒性試験は、農薬メーカー自身が、主成分のみで動物実験を行います。国による追試もありません。農薬は、主成分以外に補助剤（界面活性剤など）が添加されています。しかし、補助剤は毒性試験の対象外です。しかも補助剤の成分は、企業秘密とされ非公開です。2017年、フランスのカーン大学セラリーニ教授の研究では、ラウンドアップの補助剤は、主成分グリホサートの1000倍以上の毒性と発表されています。さらに教授は翌年、補助剤には危険なヒ素などの重金属が含まれていることも明らかにしました。子ども達は、強毒な補助剤も体内に取り込むのです。2019年、欧州司法裁判所は「農薬は売られている状態で審査しなければならない」という判断を下しています。

今、日本の農村の疲弊は深刻な状況にあります。東京大学の鈴木宣弘教授は「38%という食料自給率に種と肥料の海外依存度を考慮したら、日本の自給率は今でも10%に届かないくらいである」と指摘しています。世界的な不作や戦争などによって輸出停止になれば、日本人は飢えてしまいます。学校給食で国産の安心安全な食材を購入することは、日本の農家を支えることにもなります。2023年6月には、与野党の超党派の国会議員30人以上が集まり「オーガニック給食を全国に実現する議員連盟」が発足し、子ども達の健康に配慮した食材を提供しようという取り組みも始まっています。国産の安心安全な食材に切り替えることは、子ども達のためにも、日本の未来のためにもなるのです。

以上のような観点から、文京区議会に対して下記の事項を請願いたします。

## 請願事項

- 1 予防原則に基づき、グリホサート残留の可能性が高い輸入小麦は学校給食での使用を止めて、国産小麦・米粉または米飯にするよう区に求めること。
- 2 農薬の安全基準を決める毒性試験は、「主成分のみ」で行われている現状を改め、「実際に使用される農薬（主成分+補助剤）」で行うよう国に求めること。